

女性社長 社員の幸せ追求

県「活躍推進企業」三つ星の2社

3.8 国際女性デー
OurVoices
性を考える

県が2015年度に創設した「女性活躍推進企業」の認証制度で、最上位の三つ星は15社ある。このうち、女性が社長を務めるのは2社。建設、サービスと業種は違えど、誰もが働きやすい「社員の幸せ」を追求する姿勢は共通している。



建設業 広がる活躍の場 育休中面談 復帰100%に

「紅葉建設」(東近江市)の高橋明日香さん(44)は、社長に就任して4年。社員18人のうち、女性は4人。公共工事を中心に、のり面処理や道路整備、除雪などを手掛ける。創業者の父の働く姿を幼いころから見てきた。災害対応で夜中に呼び出されることもあったが、「地域のために仕事をやる姿が格好良かった」。ただ当時は、女性の自分が会社を継ぐとは思っていなかったという。

大学卒業後に入社し、当初は主に事務を担当していた。20代半ばで2児の母に。育児に追われながら、土木の現場管理に関する国家資格を取得し、工事現場に出ることが増えた。工程や安全の管理、地域との調整など幅広い役割を担う。

以前から従業員の子どもが病気になったり、学校行事が重なったりすれば家庭を優先してもらおうと社風で、「小さな会社なので、社員も家族のような存在」と強調する。

認証制度は、県の建設工事の入札資格審査でポイント加算があることから着目し、今年1月に三つ星を獲得した。帝国データバンクによると、国内企業の女性社長比率は過去最高の8・6%(25年10月)だったが、全業種で「建設」は4・9%で最も低い。高橋社長も女性ということでは、住民から心ない言葉を投げかけられたこともあるという。

一方、現場では女性従業員の増加を実感する。現場管理や測量、ドローンによる撮影など、技術の進歩に伴って力に関係なく従事できる分野が広がり、同じく女性社員を増やしたいという。「社員と一緒に幸せになりたい」と高橋社長。「自分たちが作ったものが形として残り、防災や減災を含め社会に貢献できる。一人ではできない仕事なので、完成の喜びをみんな味わいたいですね」

「三つ星はうれしかった。続けてきた取り組みが形になった」。そう声を弾ませるのは、フィットネスや整体事業を展開する「エフアイ」(栗東市)の北野裕子社長(52)だ。北野裕子社長(52)は、09年に父から経営を引き継ぎ、社員50人の8割を女性が占める。

そこで産休前から丁寧に話し合い、育休中もオンライン面談を続ける仕組みを導入。北野有紀専務(55)を中心に一人一人に寄り添った結果、復帰率が100%に。23年には三つ星に輝き、社員に毎年聞く「幸せ度」も向上しているという。

同社は15年に一つ星を取得。もともと柔軟な働き方を取り入れていたが、就業規則への明記を進めた。育休の取得率も高かった一方、復帰せず退職するケースがあった。そこで産休前から丁寧に話し合い、育休中もオンライン面談を続ける仕組みを導入。北野有紀専務(55)を中心に一人一人に寄り添った結果、復帰率が100%に。23年には三つ星に輝き、社員に毎年聞く「幸せ度」も向上しているという。

「県の公的認証なのでより安心感がある」と話す。社員に対し、経営理念や働く意義の発信も続けている。「共働きが当たり前になる中、母や父としてだけでなく、社会にどう貢献したいか。そうした内面の教育と待遇などの仕組みの両輪があってこそ、従業員の幸せにつながる」と思いを込める。(堤冬樹)



エフアイの北野裕子社長(左)と北野有紀専務(栗東市安養寺6丁目)

紅葉建設の高橋明日香社長。工事現場では、ドローンによる撮影なども行っている

(東近江市永源寺相谷町)